

# 同窓会だより

信州大学医学部保健学科同窓会事務局  
School of Health Sciences, Shinshu University  
第11号 2013年10月



## —目次—

川上由行先生 同窓会会長の挨拶	2
山沢清人先生 学長のご挨拶	3
寺田克先生 同窓会名誉会長のご挨拶	4
新入教員のご挨拶	5
カーティン工科大学短期留学報告	5
平成24年度活動報告	8
総会記録	11
平成24年度事業報告	12
平成24年度医学部保健学科同窓会決算書	13
平成25年度事業計画	14
平成25年度医学部保健学科同窓会予算書	14
同窓会役員	15
信州大学医学部保健学科同窓会会則	15
編集後記	16

2013  
第11号

## 同窓会設立11年目を迎えて

信州大学医学部保健学科同窓会会長 川上 由行  
(信州大学医学部保健学科 検査技術科学専攻 病因病態検査学講座 教授)

2002年10月に医学部保健学科が開学し、開学記念式典が挙行されました。そして、翌2003年4月には保健学科1期生を迎えると同時に、保健学科同窓会が発足しました。10年の月日が流れ、昨年末の12月16日には、「信州大学医学部保健学科開設10周年」と「信州大学大学院医学系研究科保健学専攻完成」の記念式典が挙行されました。松本市長の菅谷様による「命を大切にするまちづくり — 健康寿命延伸都市・松本の創造 —」の記念講演を拝聴しました。

今年2013年は、同総会設立11年目です。6月22日(土)に開催した定期総会で、新たな役員が選出されました。新たな10年へ向けてのスタートの年度が始まりました。我が母校は、保健学科11期生を、医学系研究科博士前期課程7期生、そして博士後期課程5期生を迎えました。寺田学科長のお言葉にもありますが、「地域保健推進センター」設立とこれに関連した北校舎の耐震改修・増築の工事が2013年3月の竣工予定で、既に着工されています。この「地域保健推進センター」の設立には、保健学科同窓会(現任教職員を含む)を基盤とする「地域保健推進センター設置基金管理組織(仮称)」の多大な関与が求められています。同窓会員におかれましては、完成年度まで見守っていただくことと同時に、ご協力をお願い申し上げます。

ますます発展し続ける我が母校保健学科/大学院保健学専攻の今後を考えた時に、まず頭に浮かんだのは誰が我が母校の未来をつくるのか、ということです。科学技術の進歩は、社会のあらゆる側面で画期的な利便性や効率性を発揮して来ています。いまでは携帯電話がなかった頃を思い出すのさえ難しくなっていますが、ほんのつい15年程前までは、まだそれなしで多くの人は生活していました。このような技術の

進歩を予測することも大事ですが、それを使おうとする人間の意思や願望こそが、未来を創っていく源泉となっていることを感じます。

そもそも人類は歴史的に見て、想

像したことを次々と実現させてきました。自動車も、飛行機も、コンピュータも然りです。つまり母校保健学科/大学院保健学専攻の未来は私たちのビジョンや願望がまずあって、その実現へ向けての「ちから」が備わったときに創られるのだと思います。我が保健学科/大学院保健学専攻の未来を創るには、それを想像する力が重要なのです。

本学医学部に保健学科が設立されて10年が経過しました。今年2013年からは、新しいこれから10年後の母校の姿を創造し、その実現へ向けて、我が同窓会も母校とともに新たな歩みを始めて行きたいと思っています。





# 信州大学医学部保健学科同窓会会報 学長のご挨拶

信州大学 学長 山沢 清人

信州大学医学部保健学科同窓会の皆様には、平素より信州大学の教育研究にご支援を賜り、誠にありがとうございます。4月に入学した1年生も今ではすっかり大学生らしくなり、大学での学問やサークル活動、数々の行事などに元気に励んでおります。

それでは、昨年の本学及び医学部保健学科に関する話題をいくつかご紹介いたします。

まず、大変喜ばしいことですが、昨年11月の「日経グローバル誌」上で、本学が全国大学の地域貢献度ランキング第1位に選ばれました。評価項目の中でも「ボランティア・防災」の分野では、順位が前回の17位から1位にランクアップしました。これは、地域住民や地元自治体向けの防・減災に関連した公開講座などの実施や、災害時の避難場所として住民を受け入れた際の運営マニュアルの作成及び飲食料の備蓄をいずれも実施するなど、災害時に備えた体制の充実が評価されたものです。

そして昨年9月には医学部保健学科が開設10周年を、昨年3月には大学院医学系研究科保健学専攻の完成年次を迎えることができました。昨年12月には、それらを記念した式典が開催され、それに併せて松本市菅谷市長による記念講演会も行われました。多くのご来賓や関係者、そして多数の同窓会の皆様にもご出席いただくなど、節目を祝うに相応しい盛大な式典となりました。

医療技術の進歩はまさしく日進月歩です。保健学科を例にとりますと、カリキュラムにおいてはより実践的な講義・演習・実習を数多く展開しているほか、コミュニケーション能力や国際的視野を身につけることを目標とし、海外研修なども取り入れた幅広い教育を行っています。長野県の地域拠点大学として、地域医療の担い手となる人材を引き続き輩出していくことはもちろんのこと、これからは、日本にとどまらずグローバルに活躍する人材の育成も期待されます。

次に、大学改革を含めた本学全体の動きについてお知らせします。昨年6月に文部科学省から示された「大学改革実行プラン」ですが、本学ではそれに先行して信大改革の準備を進めておりました。昨年6月に設置した大学改革推進会議および6つのワーキングチーム(WT)において、「ミッションの再定義への対応」、「地域(産官を含む)連携・大学間連携の検討」、「グローバル人材育成・入試改革の検討」、「大学院高度化の検討」、「教育連携組織の検討」、「グローバル研究拠点の検討」などを行っておりました。その結果、今年4月からは学内措置によるリーディング大学院の設置やグローバル人材育成事業が開始するなど、具体的な計画が動き出しつつあります。

また、一昨年10月に策定した『信州「知の森」づくり PLAN

“the FIRST” 2011-2013 —持続可能な明日のために—』に関しても、各理事・副学長が中心となって多くの事業が順調に進んでいます。今年3月には、事業の進捗状況について、計画期間満了時点を見据えた達成見込みによる自己評価を行い、S評価(計画の達成に加え、それ

以上の成果が想定される)が9件(74件中)、A評価(計画の達成が想定される)が51件(同上)となるなど、非常に高い水準で計画が達成される見通しとなりました。(「PLAN “the FIRST”」中間評価に係る報告書は本学ホームページに掲載されていますので、ぜひ詳細をご確認ください。)

この事業の中では、医学部保健学科同窓会をはじめとする信州大学各同窓会を基幹としつつ、在学生、保護者や教職員、さらには本学にゆかりのある方々も含む包括的な組織として、『信州大学「校友会」』の設立も検討しているところです。

加えて、信州「知の森」構想に向けた取組みの充実・発展、並びに教育環境の整備及び学生支援を目的とした独自助成基盤としての『信州大学「知の森」基金』構想も現在検討中です。そこでも、校友会には大学と連携の上、基金への寄附者の募集へのご協力をお願いしたいと考えております。国から交付される予算額が年々減額されている中で、この「知の森」基金は独自財源の一つとして重要なものとして位置付けられます。医学部保健学科同窓会の皆様にも、是非「校友会」及び「知の森」基金へのご理解・ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

次年度以降に向けては、信大改革を着実に推し進めるとともに、これまで育んできた信州「知の森」をさらに豊かに深化させるため、『信州「知の森」づくり PLAN “the FIRST” 2013-2015』を策定し、教育・研究・地域貢献事業などの充実を図る予定です。平成28年度からは第3期中期目標・中期計画期間が始まりますが、その基盤づくりにもつながると考えています。

最後になりますが、以上の通り、本学教職員が一丸となって信州大学のワンランクアップを目指し取り組んでいるところです。医学部保健学科同窓会の皆様にも、より一層のご支援をよろしくお願い申し上げます。



## 同窓会の皆様へ

信州大学医学部保健学科同窓会名誉会長 寺田 克  
(信州大学医学部保健学科長／看護学専攻 成人・老年看護学講座 教授)

同窓会の皆様には、平素より在校生に対する教育支援や学科の運営補助にたくさんのご配慮をいただいております。特に昨年12月16日に挙行了した「信州大学医学部保健学科開設10周年及び大学院医学系研究科保健学専攻完成記念式典」の際には多大なるご援助を賜りました。この場をお借りし心から御礼申し上げます。さて、学科長の職を仰せ付かってから2年5ヶ月が経ち、任期も残すところ半年余りとなりました。任期中に為すべきことに関して関係各位・教職員の方々のご協力の下にラストスパートをかけているところです。

昨年の「同窓会だより」でご紹介した保健学科で進めている「地域保健推進センター」設立とこれに関連した耐震改修・増築の案件に関する取り組みは、本年25年1月15日付けで文科省の平成24年度補正予算において承認されました。これを受け本年8月より北校舎の耐震改修工事と北校舎の北東側に隣接した増築工事（およそ1000m<sup>2</sup>）が着工となり、来年3月の竣工予定です。また本年1月の医学部教授会において、平成26年度の施設整備事業要求で中校舎の耐震改修を学部順位1位で申請することをご承認いただき、本年6月に法人本部戦略企画会議で本案件が平成26年度概算要求「施設整備費補助金」『一般事業』の学内要求順位1位に決定したとの報告を受けています。これが文科省で認められますと平成26年の夏以降から後期にかけて中校舎耐震改修の予定となります。整備が済みましたら何らかのかたちでご案内申し上げます所存ですが、来年度にかけて建物の外観や内装・部屋の配置が大きく変わります。同窓会の皆様におかれましては近くにお越しの際には是非旧学び舎をご覧いただけたらと思います。

「地域保健推進センター」は、地域貢献の拠点形成と教育・研究環境の狭隘化の改善を目指しての増築・耐震改修とを合わせた機能改善を目途としています

が、同時に、平成24年6月に文部科学省からいただいた大学改革実行プランの中に盛り込まれている『国立大学・学部の設置目的を明確にし、公的教育機関としての存在意義を「見



える化」すること』や、『大学のCenter of Communityの機能を強化し、地域の課題を直視して解決に向けた取り組みを行う中で得た知見を教育・研究に反映し、教育研究の機能強化を図ること』などを保健学分野で具現化するための中心的な役割を担っていくと思えます。教職員ならびに在校生が一丸となって取り組んでいく必要があることは言うまでもありませんが、本件実現には引き続き皆様のご協力を必要としています。単に同窓会員というお立場のみでなく、時には医療職者としてのお立場や職能集団的なお立場等でのご支援とご指導を賜ることもあろうかと存じます。今後ともよろしく申し上げます。





## 新入教員のご挨拶

### 自己紹介

石田 文宏

(検査技術科学専攻 病因・病態検査学講座)

平成24年10月より検査技術科学専攻の病因・病態検査学講座に赴任しました石田です。おもに血液検査学を担当しております。未だ、不慣れなことも多く、諸先生方に種々教えていただきながら日々を過ごしております。



安曇野に生まれ、信州大学周辺での生活がこれまでの大半を占めます。ここしばらくは内科で血液内科を担当していました。血液内科の現場では血液検査と標本の観察は不可欠ですが、近年はもっぱら時間が治療面にそそがれるようになったため、検査面は検査技師の方々に頼っておりました。一方、長らく形態診断が大きなウエイトを占めていた血液腫瘍診断の分野も、遺伝子異常や病態に関して理解が進み、統合された情報が必要になってきております。また、検査の自動化が既に一般化している時代ですが、未だ、鏡検観察の重要性が減じているところは全くありません。進歩も踏まえつつ、基本をおさえた技師を一人でも多く育成できるよう、取り組んで行く所存です。ご指導、ご鞭撻のほど、よろしく願い申し上げます。

北校舎で約9ヶ月を過ごした後、耐震改修工事の本格化に伴い、北校舎の他の先生方と共に仮住まいに再度引っ越しました。旧きレンガづくりの旧兵舎と隣あって新生なる校舎での本学科の発展に、微力ながら貢献できればと考えております。

### 自己紹介

石田 史織

(看護学専攻 広域看護学講座 地域・在宅領域)

今年度4月より広域看護学講座(地域・在宅領域)の助教に着任致しました。私は大学卒業後、長野県佐久穂町で保健師として勤務しました。そこは、50年以上前から医療機関と行政、住民が協力し住民の自治による健康管理が行われてきた歴史ある地域で、住民の生活をより具体的に把握し支援に生かすため地域に出向き訪問活動を徹底的に行うなど保健師の基礎を学びました。そんな中、住民の相談には「遺伝」に関することが意外にも多く、身近であるにも関わらず不十分な理解により誤解を招き悩み苦しんでいることに気づきました。しかし、自分の知識や力量がなくどうかそれを解決したいと思い、本学大学院医学系研究科医学科学専攻に進学しました。在学中、大学院で学んだ知識を保健師として地域で活用したいと思い、その後長野県の保健師として勤務しました。県保健福祉事務所(保健所)では、母子保健・感染症対策担当として結核やHIV、STD、感染症の検査、調査、管理等や乳幼児の虐待対策、極低出生体重児の支援に従事しておりました。



保健師は人の生活や人生を支え、住民や関係職種と協働し地域全体を健康に導くコーディネーター。大変なことも多いけれど、とてもやりがいがあり楽しいということを学生の皆さんにお伝えできればと思います。教員歴もなく至らないことも多いかと思いますが、自己研鑽を怠らず教育や研究に携わりたいと思いますのでどうぞ宜しくお願いいたします。

## カーティン工科大学短期留学報告

### カーティン大学短期留学を終えて

看護学専攻3年 井伊谷美希

私は今回の短期留学で多くのことを学びました。

まず一つ目は福祉についてです。留学前、私は日本の福祉は十分だと思っていましたが、まだまだ改善する点が多々あることがわかりました。例えば公共のバスです。オーストラリアのバスの車内では、日本に比べて、車椅子やベビーカーを使っている人が多く見られます。それは、オーストラリアのバスはそれらの人が乗りやすいように、車体が傾いて乗車口からスロープが出てくるからです。日本にも同じようなバスがあ

るそうですが、私は日本で見たことがなかったのですごく驚きました。長野県は特に高齢者の多い県なので、ぜひこのバスを取り入れるべきだと思いました。

また、二つ目はオーストラリアと日本の文化は大きく違い、文化が違えば必要なケアも変わってくることです。日本とオーストラリアでは多くの違いがあります。例えば、日本と違ってオーストラリアの人々は普段シャワーを浴び、滅多に浴槽には入りません。それによって、老人ホームなどで、日本では主要なケアである(浴槽での)入浴介助が必要ではなくなります。また、オーストラリアの一般家庭ではリビングチェアを使うことが多いです。それに伴い、福祉用品

売り場にはリビングチェアがたくさん置かれていました。これらは日本の文化では必要がないため、日本では見かけません。でもその代わりに、日本では、ひざを悪くして正座ができない人でも畳で生活することができるよう、座椅子があります。このように、文化が違えば生活様式も違い、それに伴って必要な道具やケアも変わってくるということを、具体的に学ぶことができました。

このプログラムに参加して、オーストラリアの大学に通うだけでなく、ホームステイや施設見学、観光をすることができ、毎日とても新鮮で楽しかったです。また、留学前とは違った視点で日本の医療を見ることができるようになり、とても良い経験になりました。

今まで海外へ留学することや海外で働くことにほとんど興味がありませんでしたが、今回このプログラムに参加して、もっと長期の留学をしてみたいと思うようになりました。また、海外で働くことも視野に入れたいと思うようになりました。将来海外で働くことがなくても、今回オーストラリアの医療の現場を見て、日本の医療を以前よりは客観的に見ることができるようになったので、その視点を忘れずに、より良い医療を考え続けていきたいです。

## カーティン大学夏期海外単位認定プログラム 感想文

検査技術科学専攻1年 小出 将太

今回の留学は、初の飛行機かつ、初の国外でした。僕は一年生で参加し、この春まで受験のための英語学習をしていたので、英語で会話することに苦労することが多かったです。ホームステイ先では英語が苦手な僕に合わせてくれました。二週間も経つと慣れてきて、よりスムーズに会話することができました。正しい言葉遣いを教えてもらったこともあります。今まで発音を間違っていたこと、訛などには苦労しました。知らない単語だと思って聞いてみたところ、知っている単語だったということもありました。

Biomedical Scienceの講義、病理学の実習、そして細菌学の実習にも参加することができました。この講義では、細菌学、ウイルス学、寄生虫学に関する話でした。ちょうどウイルスの本を読んでいたところだったので興味深い講義でした。病理学の実習ではグラム染色をし、顕微鏡で観察しました。現地の学生さんは手際よく染色をしていました。手順が英語で書かれていたので、その日の夜、日本語に訳してみました。ま



だ大学で勉強していない内容で、早く勉強したいと思いました。記念に持ち帰ったプレパレートは部屋に飾りました。

大学の中で、熱心に勉強したり、友人に勉強を教えたりしている学生たちを見ることがありました。上述した講義では、学生から積極的に発言や質問がありました。また、ホームステイ先には、他に中国からの留学生が二人いました。家に居る時、二人は夜遅くまで勉強をしていました。外国人の勉強への熱意はすごいと思いました。

諸事情により、検査の学生が僕一人になってしまいました。そのため、検査に関係する外部の施設の見学に行くことができず、PT・OTのみさんと一緒に見学に行きました。他分野の施設や、実際の医療現場を見ることができました。チーム医療が広まる中、他の役割について知っておくこともよいと思いました。

勉強だけではなく、週末に観光したり、ホストファミリーとお出かけしたりしました。オーストラリアの文化も学ぶことができました。この三週間はあっという間に過ぎ、英語を学習するには短すぎましたが、学ぶことはたくさんありました。これから、外国人の勉強に対する熱意を思い出しつつ、僕も勉強に励みたいと思いました。

## カーティン工科大学短期留学を終えて

作業療法学専攻2学年 佐藤 和哉

僕は今回の短期留学のプログラムで初めて海外の生活を経験しました。初めは不安で現地での生活に困惑する日々を過ごしていましたが、時間が経つとともに少しずつ生活にも慣れて毎日が楽しくなってきました。

今回のプログラムで一番印象深かったことはカーティン大学での授業でした。プログラムの中でカーティン大学の理学療法専攻と看護学専攻の4年生の授業に参加させていただきましたが、そこで見た学生の姿はまるで臨床の場で働いているような振る舞いでした。先生が患者の例を挙げそれについて「この患者に



はどういう症状があって、どんな障害が考えられるか、どのような治療を行えば寛解・回復するか」などそれぞれの職種の観点から生徒が積極的に意見を出し合っていました。理解できない点や疑問に感じた点についてはすぐに質問をするなど、知識だけでなく、自分が知識を得られるならどこからでも知識を得ようとする貪欲さ、勉強に対する姿勢がとても印象的でした。話を聞くと理学・作業療法専攻ともに生徒数が全学年で信州大学の約10倍在籍しているそうです。先生が生徒全員を把握することはとても難しいらしいのですがその分進級できる生徒の自主性が大きく養われるようです。こういったところから自分が見た現地の生徒の勉強に対する姿勢が生まれているのだと思うとすごく刺激になりました。

また、現地の人々との交流も印象に残っています。カーティン大学に短期留学してプログラムを終了するまでにブラジル人や、中国人、アメリカ人などさまざまな国の留学生と交流を行いました。授業や普段の生活でさまざまな国の人々が英語を通じてコミュニケーションをとっているのを実際に見ていると自分の英語力のなさを実感しもっと英語を勉強したいという気持ちが強くなりました。

今回の短期留学プログラムを通してさまざまな人と関わり、さまざまな経験をして英語やオーストラリアの医療、外国の人のことなどを知ることができ、自分の視野を広げることができました。そうして自分が現地の学生に近づきたくもっといろいろなことを学んでみたいと思う一方で、自分の知識が足りないということを痛感しました。

今回の短期留学で見たもの、得たものを少しでもこれからの大学生活で活かせることができたらと思います。

今回のプログラムに参加できて本当に良かったと思います。

## カーティン短期留学に参加して

理学療法専攻3年 高村 大祐

今回のプログラムを通して1番大きかったことはホームステイで英語の勉強をできたということです。英語を使って会話することが本当に新鮮ですべてが自分にとってプラスになるものでした。時間が経つにつれて英語に対する抵抗感がなくなっていき、耳も英語



に慣れてきているのを実感することができました。プログラムの後半には、ホストマザーに、英語がだいぶ上達したと言ってももらい、本当に嬉しく感じました。英語を話せるようになれば世界中の多くの人とコミュニケーションをとることができるということになります。それらのことをモチベーションにして英語の勉強を頑張っていきたいと思います。

次に大きな学びとなったのは、オーストラリアと日本の理学療法に対する考え方の違いです。日本では理学療法士は医師の診断の下でしか理学療法を行うことができないけれど、オーストラリアでは医師の診断なしに理学療法を行うことができます。カーティン大学の理学療法専攻の生徒が受けている授業にも参加させていただきましたが、生徒は積極的に質問しているところが日本の学生との違いなのではないかと思いました。4年生の実習を見学しましたが、生徒たちはとても自信をもって治療しているのだと感じ、先生とのカンファレンスでも自分の意見を堂々と述べていたので本当にすごいなと感じました。

自分は、大学に入学したころは国際的に活躍できるような医療関係者になりたいなと思っていました。だから入学したころからこのプログラムに参加しようと決めていましたが、勉強しているうちに何となくその目標があいまいになってきていました。しかし、このプログラムに参加して、実際に海外の医療を見学することができ、国際的な医療人になるという目標を再び思い出すことができました。



# 平成24年度 活動報告

## 検査測定実習器機を 同窓会からご寄附いただきました

### ■ 理学療法学専攻

平成24年度は理学療法学専攻の検査測定実習器機の購入に際しまして、保健学科同窓会から多額のご援助をいただきありがとうございました。購入機器について紹介致します。

#### ①携帯型呼気ガス分析

**装置：**「内部障害の理学療法」、「卒業研究」、大学院研究で使用します。運動負荷試験時の呼吸に伴う酸素ガス濃度・炭酸ガス濃度をはかり、呼吸ガス分析より代謝機能を科学的に計測します。これにより、運動療法や健康分野における体力測定などで活用されます。



①AT測定装置 (PT)

**②多用途生体情報解析プログラム：**筋電図、アナログ信号などをシールドケーブル、AD変換ボードを通じてノートパソコンに取り込み、画面上で様々な解析処理を実行するソフトウェアです。「卒業研究」、「大学院研究」で使用します。



②EMG解析機器 (PT)

**③トリートメントテーブル：**南棟3階の実習室に配置しました。これまで短期大学部開設時期から使用していたテーブルが老朽化し、すべて新しくすることとなりました。作業・理学の両専攻が使用する頻度が高く、丈夫な器機を導入できました。「理学療法評価法」、「日常生活活動」などあらゆる講義実習で使用しております。



③治療台 (PT)

### ■ 作業療法学専攻

保健学科同窓会より、作業療法学専攻の実験・実習関連機器の購入にご支援を頂きましてありがとうございました。作業療法学専攻では、実験・実習領域も多岐にわたるため、合計18点の物品を購入させて頂きました。その一部をご紹介します。

**④EMR-dFactory ドングルキー：**眼球運動計測装置で計測した視線運動を解析するソフトを起動するための



④EMR-dFactory ドングルキー



鍵のようなものです。当初1つしかなかったものが2つとなり、作業解析学実習や卒業研究が効率よく進められるようになりました。

⑤小型振盪恒温器：

試薬や試料を一定温度で安定して振盪する装置です。卒業研究や大学院生の研究に活用しています。電子天秤計も一緒に購入して頂きました。



⑤小型振盪恒温器

⑥キーボード・トーンチャイム：余暇活動実践論実習で精神科病院や高齢者施設でのレクリエーションを行っているため、持ち運びができる本格的なピアノサウンドのキーボードを購入しました。トーンチャイムは、アルミ合金製のパイプをたたいて共鳴させる楽器で、軽量で使いやすく、柔らかく美しい音色を奏でるた



⑥キーボード・トーンチャイム

め、障害者の音楽活動によく使われています。今後の実習で活用したいと思います。

⑦オコナー巧緻テスト：上肢機能や手指の巧緻性を検査する器具で、身体障害評価学実習で使用させて頂いています。その他のペグボードや東大型角度計も購入して頂きました。

⑧電子式ゴニオメーター：ADL等の動作時における関節角度の計測に使用するもので、卒業研究で使用させて頂いています。その他に、老年期作業療法学の授業で高齢者の動作介助の実習を行うために、歩行器や杖、補助手すり等も購入していただきました。

⑨WISC-IV知能検査用具：小児用の精密な知能検査で、発達障害評価学実習で使用します。これまで1セットのみだったので、2セットになり実習がスムーズになりました。幼児用知能検査WIPSSIも同時に購入して頂きました。



⑧電子式ゴニオメーター



⑦オコナー巧緻テスト



⑨WISC-IV知能検査用具

### 坂口しげ子先生 最終講義

平成25年2月14日(木)

平成25年3月末をもって、看護学専攻の坂口しげ子先生が退職されました。平成25年2月14日(木)には最終講義「看護教員生活40年をふりかえって」が旭総合研究棟9階講義室において行われました。当日は、学内・学外関係者など多数のご参加をいただきました。



### 卒業祝賀会

平成25年3月21日(木)

平成25年3月21日(木)に旭会館一階にて卒業祝賀会を開催しました。寺田学科長と各専攻の成績優秀学生です(看護学専攻・小林明日香さん 検査技術科学専攻・並木宏暢さん 理学療法学専攻・内平貴大さん 作業療法学専攻・成田千恵さん)。



### 大学院修了祝賀会

平成25年3月21日(木)

平成25年3月21日(木)に大学院修了祝賀会を開催しました。第二期の博士後期課程修了者は3名で、学位論文は以下の通りでした。

#### ・青木幹正さん

A descriptive study investigating the feasibility and selectivity of Current Perception Threshold in the objective assessment of post-operative sub-acute knee pain

(手術後の亜急性膝痛の客観的な評価における電流知覚閾値の実現可能性と選択性を調査した記述的研究)

#### ・中西康祐さん

Evaluating the quality of life of people with dementia in residential care facilities

(施設に入所している認知症高齢者の生活の質の評価)

#### ・務台均さん

Factors associated with functional recovery and home discharge in stroke patients admitted to a convalescent rehabilitation ward

(回復期リハビリテーション病棟に入院した脳卒中患者における機能回復および在宅復帰に寄与する因子の検討)

### 特別講演

平成25年6月22日(土)

平成25年6月22日(土)、「死なんて、もっと遠いものだと思っていた～大切な人を亡くすということ 医療者のかかわりと～」をテーマに、朱亀佳那子氏(フリーランス編集者・ライター)の公開講演会を開催致しました。学生ばかりでなく市民の方々の参加もみられ、会場満員となりました。





## Topics

# 信州大学医学部保健学科開設10周年及び 大学院医学研究科保健学専攻完成記念式典・記念講演会

平成24年12月16日(日)医学部第2臨床講堂にて、保健学科開設10周年と大学院博士課程完成の記念式典を行いました。これには文科省高等教育局医学教育課の伊藤洋子課長補佐から祝辞をいただきました。続いて「命を大切にすまちづくりー健康寿命延伸都市・松本の創造ー」をテーマに、菅谷昭松本市長の記念講演会を開催致しました。



## 総会記録

### 平成25年度信州大学医学部保健学科同窓会総会議事録

日時 平成25年6月22日(土) 15時15分～16時15分

場所 旭総合研究棟9F講義室A/B

出席者 寺田 克 同窓会名誉会長・川上由行・奥村伸生・柳澤節子・横川吉晴・寺澤文子・小穴こず枝・亀子文子・轟 智子・阪口しげ子・松永保子・青柳美恵子・務台 均・日高宏哉・村山忠勇

- 保健学科同窓会会長(川上 由行 教授)挨拶
- 保健学科同窓会名誉会長(寺田 克 学科長)挨拶  
地域保健推進センター(仮称)及び北校舎改築の説明があった。
- 議長選出  
務台 均氏を選出した。
- 平成24年度事業報告及び決算報告について  
奥村伸生幹事から事業報告があり、続いて柳澤節子幹事から決算報告があり承認された。
- 平成24年度記念事業等特別積立金・地域保健設置積立金について  
柳澤節子幹事から説明があり承認された。
- 平成24年度会計監査報告  
寺澤文子監事から平成25年6月5日(木)に小池聖子監事と通帳・帳簿・証拠書類を確認したところ適正に処理されていた旨の報告があった。
- 平成25年度会費納入状況報告書  
柳澤節子幹事から説明があり、会費納入に対して更なる協力要請があった。
- 平成25年度事業計画及び予算書(案)について  
奥村伸生幹事から事業計画の説明があり、続いて柳澤節子幹事から予算書(案)の説明があり承認された。
- その他  
なし。

# 平成24年度事業報告

## 1. 在校生の教育支援及び保健学科の運営補助

- 1) 学生図書購入
- 2) 学術国際交流推進(オーストラリア,カーティン大学短期留学プログラム)
- 3) 特別講演の開催
  - ・平成24年度 保健学科同窓会特別講演  
平成24年6月23日(土) 旭総合研究棟9階  
テーマ:「地域で共に生きるということ」  
講師:海老原宏美  
(NPO法人自立生活センター東大和理事長)
  - ・保健学科開設10周年及び大学院医学系研究科保健学専攻完成記念式典記念講演  
平成24年12月16日(日)  
信州大学医学部臨床棟4階 松医会講堂(第2臨床講堂)  
テーマ:「命を大切にすまじづくり  
—健康寿命延伸都市・松本の創造—」  
講師:菅谷 昭松本市長
- 4) 実習指導者連絡協議会開催補助
- 5) 卒業生を迎えての懇談会補助
- 6) 卒業式・学位記授与式
  - ・祝賀会補助
  - ・卒業記念品の贈呈(集合写真)
  - ・竹内松次郎賞記念楯(優秀学生表彰)
- 7) 就職活動支援 各専攻の就職支援活動状況の把握
- 8) 入試広報活動補助
  - ・キャンパス見学会補助
  - ・各特別選抜試験および一般選抜試験補助
- 9) 学生課外活動支援
  - ・新入生合宿研修補助
  - ・松本ぼんぼん参加補助
  - ・学生、教職員ソフトボール交流会
  - ・学生のボランティア参加等の活動支援
- 10) 学習環境整備
  - ・学部学生支援  
理学療法学専攻(多用途生体情報解析・携帯型呼気ガス分析装置 他)  
作業療法学専攻(電子てんびん、発達検査セット 他)
- 11) 地域保健推進センター設置基金の創設

## 2. 保健学科同窓会分科会支援

- 1) 看護学専攻:アルプス会・桐の木会
- 2) 検査技術科学専攻:臨嶺会
- 3) 理学療法学専攻・作業療法学専攻:州嶺会

## 3. 保健学科同窓会の運営について

- 1) 同窓会ホームページの運営
- 2) 同窓会だより第10号の発行
- 3) 同窓会総会および役員会の開催
  - ①平成24年度総会の開催  
平成24年6月23日(土) 15:15 ~ 16:15

旭総合研究棟9階

### ②理事会の開催

平成25年6月11日(火) 18:30 ~ 20:30  
保健学科第一会議室

### ③幹事会の開催

平成24年12月14日(金) 18:00 ~ 20:00  
保健学科小会議室

平成25年5月23日(木) 18:00 ~ 20:00  
保健学科小会議室

### 4) 同窓会事務局の運営

### 5) 信州大学同窓会連合会との連携

- ・第14回信州大学同窓会連合会役員会  
開催日:平成24年7月21日(土)

報告事項:

1. 平成23年度活動報告および会計報告について  
議 題:

1. 平成24年度予算書(案)について
2. 平成24年度同窓会連合会の活動について
3. 全学同窓会の設立等検討について

- ・第15回信州大学同窓会連合会役員会  
開催日:平成25年2月16日(土)

議 題:

1. 平成25年度学生及び卒業生表彰候補(案)について  
下記4名の表彰者が決定された。

- ・佐藤 永太郎(理学部4年生)

サイエンスインカレにて奨励賞

- ・CF-Teamめとば(理学部・医学部学生)

松本市の給食に使われる食材の放射濃度を測定するなど、積極的に社会貢献活動を実施

- ・吹奏楽団

第67回東海吹奏楽コンクールにて金賞及び朝日新聞社賞

- ・斉藤 智子(人文学部2年生)

2012野尻湖カップトライアスロンにて女子の部3位

2. 平成24年度同窓会連合会の活動について

学友会への資金援助については、25年度も20万円援助することで了承。

3. 信州大学校友会(案)及び知の森基金(案)について

報告事項:

1. 平成25年2月2日東京同窓会開催報告

2. 経理状況報告について

3. 信州大学文化財冊子の申込方法及び各同窓会における発送業務協力(着払い)について

(とりあえず各学部同窓会に200部配布)

### 6) 信州医学振興会支援



# 平成24年度医学部保健学科同窓会決算書

## 収入

平成25年5月31日現在  
(単位:円)

事 項	24年度予算額	24年度決算額	差 額
前年度繰越金	1,304,479	1,304,479	0
会 費(在校生)	1,325,000	1,325,000	0
会 費(新入生・3年次編入生・大学院生含む)	8,255,000	8,255,000	0
利 息	0	1,061	△ 1,061
合 計	10,884,479	10,885,540	1,061

## 支出

事 項	24年度予算額	24年度決算額	差 額	
1. 在校生の教育支援及び保健学科の運営費補助	・図書購入費	800,000	800,000	0
	・学術国際交流推進経費	700,000	700,000	0
	・特別講演会経費	100,000	62,987	37,013
	・実習指導者連絡協議会経費	150,000	85,555	64,445
	・卒業祝賀会経費	350,000	181,000	169,000
	・卒業生記念品代	160,000	172,800	△ 12,800
	・就職活動支援	50,000	0	50,000
	・入試広報活動経費	200,000	171,320	28,680
	・学生課外活動経費	300,000	76,624	223,376
	・学習環境整備	2,400,000	2,404,142	△ 4,142
	・地域保健推進センター設置基金	500,000	500,000	0
	小 計	5,710,000	5,154,428	555,572
2. 保健学科同窓会分科会(各専攻単位)運営費補助	・アルプス会・桐の木会	1,600,000	1,600,000	0
	・臨嶺会	800,000	800,000	0
	・州嶺会	820,000	820,000	0
	・上記振込み手数料	1,380	1,380	0
	小 計	3,221,380	3,221,380	0
3. 保健学科同窓会運営費	・同窓会ホームページ及び会報編集会議等	70,000	63,000	7,000
	・同窓会だより	400,000	378,210	21,790
	・同窓会総会等経費	300,000	210,860	89,140
	・事務処理等人件費	640,000	656,000	△ 16,000
	・通信費	40,000	24,560	15,440
	・消耗品	60,000	52,246	7,754
	・電気・電話使用料	30,000	29,115	885
	・信州大学同窓会連合会会費	70,315	70,315	0
	・信州医学振興会会費	50,000	50,000	0
	小 計	1,660,315	1,534,306	126,009
4. 予備費	292,784	25,126	267,658	
合 計	10,884,479	9,935,240	949,239	

収 入	10,885,540
支 出	9,935,240
差引残額(翌年度繰越額)	950,300

## 記念事業等特別積立金繰越額

平成25年5月31日現在  
(単位:円)

事 項	23年度繰越額	24年度内訳			24年度繰越額
		年月日	収入	支出	
記念事業等特別積立金	3,890,406				3,890,406
利 息(8月)		24.08.20	310	0	3,890,716
利 息(2月)		25.02.18	310	0	3,891,026
保健学科同窓会10周年記念事業		25.05.29		358,795	3,532,231
計	3,890,406		620	358,795	3,532,231

## 地域保健設置積立金

平成25年5月31日現在  
(単位:円)

事 項	23年度繰越額	24年度内訳			24年度繰越額
		年月日	収入	支出	
地域保健設置積立金	0	24.07.11	500,000	0	500,000
利 息(8月)		24.08.20	9	0	500,009
利 息(2月)		25.02.18	40	0	500,049
計	0		500,049	0	500,049

# 平成25年度事業計画

1. 在校生の教育支援及び保健学科の運営補助
  - 1) 学生図書購入
  - 2) 学術国際交流推進(オーストラリア、カーティン大学短期留学プログラム)
  - 3) 特別講演の開催
  - 4) 実習指導者連絡協議会開催補助
  - 5) 卒業生を迎えるの懇談会補助
  - 6) 卒業式・学位記授与式
    - ・祝賀会補助
    - ・卒業記念品の贈呈(集合写真)
    - ・竹内松次郎賞記念楯(優秀学生表彰)
  - 7) 就職活動支援 各専攻の就職支援活動状況の把握
  - 8) 入試広報活動補助
    - ・キャンパス見学会補助
    - ・各特別選抜試験および一般選抜試験補助
  - 9) 学生課外活動支援
    - ・新入生合宿研修補助
    - ・松本ほんぼん参加補助
    - ・学生、教職員ソフトボール交流会
    - ・学生のボランティア参加等の活動支援
  - 10) 学習環境整備
- ・大学院学生支援
- ・学部学生支援
- 11) 地域保健推進センター設置支援
2. 保健学科同窓会分科会支援
  - 1) 看護学専攻: アルプス会・桐の木会
  - 2) 検査技術科学専攻: 臨嶺会
  - 3) 理学療法学専攻・作業療法学専攻: 州嶺会
3. 保健学科同窓会の運営について
  - 1) 同窓会ホームページの運営
  - 2) 同窓会だより第11号の発行
  - 3) 同窓会総会および役員会の開催
    - ① 平成25年度総会の開催  
平成25年6月22日(土) 15:15～16:15 旭総合研究棟9階
    - ② 理事会の開催  
年1回(5～6月)
    - ③ 幹事会の開催
  - 4) 同窓会事務局の運営
  - 5) 信州大学同窓会連合会との連携
  - 6) 信州医学振興会支援

## 平成25年度医学部保健学科同窓会予算書

平成25年5月31日現在(単位:円)

### 収入

事 項	25年度予算額	24年度決算額	差 額
前年度繰越金	950,300	1,304,479	△ 354,179
会 費(在校生)	870,000	1,325,000	△ 455,000
会 費(新入生・3年次編入生・大学院含む)	7,510,000	8,255,000	△ 745,000
利 息		1,061	△ 1,061
<b>合 計</b>	<b>9,330,300</b>	<b>10,885,540</b>	<b>△ 1,555,240</b>

### 支出

事 項	25年度予算額	24年度決算額	差 額
<b>1. 在校生の教育支援及び保健学科の運営費補助</b>			
・図書購入費	700,000	800,000	△ 100,000
・学術国際交流推進経費	500,000	700,000	△ 200,000
・特別講演会経費	10,000	62,987	△ 52,987
・実習指導者連絡協議会経費	150,000	85,555	64,445
・卒業祝賀会経費	300,000	181,000	119,000
・卒業生記念品代	170,000	172,800	△ 2,800
・就職活動支援	50,000	0	50,000
・入試広報活動経費	200,000	171,320	28,680
・学生課外活動経費	200,000	76,624	123,376
・学習環境整備	2,400,000	2,404,142	△ 4,142
・地域保健推進センター設置基金	100,000	500,000	△ 400,000
小 計	4,780,000	5,154,428	△ 374,428
<b>2. 保健学科同窓会分科会(各専攻単位)運営費補助</b>			
・アルプス会・桐の木会	1,400,000	1,600,000	△ 200,000
・臨嶺会	760,000	800,000	△ 40,000
・州嶺会	680,000	820,000	△ 140,000
・上記振込み手数料	1,380	1,380	0
小 計	2,841,380	3,221,380	△ 380,000
<b>3. 保健学科同窓会運営費</b>			
・同窓会ホームページ	63,000	63,000	0
・同窓会だより	400,000	378,210	21,790
・同窓会総会等会議費	300,000	210,860	89,140
・人件費	500,000	656,000	△ 156,000
・通信費	40,000	24,560	15,440
・消耗品	80,000	52,246	27,754
・電気・電話使用料	30,000	29,115	885
・信州大学同窓会連合会会費	70,315	70,315	0
・信州医学振興会会費	50,000	50,000	0
小 計	1,533,315	1,534,306	△ 991
<b>4. 予 備 費</b>	<b>175,605</b>	<b>25,126</b>	<b>150,479</b>
<b>合 計</b>	<b>9,330,300</b>	<b>9,935,240</b>	<b>△ 604,940</b>



# 同窓会役員

名誉会長：寺田 克 (医学部保健学科)	理事：検査技術科学専攻4名	理事：大学院(前期)1名
会長：川上 由行 (医学部保健学科)	大竹 洋輔 (検査技術科学専攻学生)	峠 啓介 (博士前期課程院生)
副会長：務台 均 (医学部保健学科)	赤羽 貴行 (安曇野赤十字病院)	大学院(後期)1名
理事：看護学専攻8名	川崎 健治 (医学部附属病院)	高橋 理沙 (博士後期課程院生)
青柳美恵子 (医学部付属病院)	寺澤 文子 (医学部保健学科)	幹事：奥村 伸生 (医学部保健学科)
中西美佐穂 (医学部付属病院)	理学療法学専攻2名	下里 誠二 (医学部保健学科)
中島可奈子 (医学部附属病院)	清水 貴恵 (理学療法学専攻学生)	柳澤 節子 (医学部保健学科)
早川 雅子 (松本盲学校)	杉田 勇 (諏訪中央病院)	百瀬 公人 (医学部保健学科)
三輪百合子 (長野県看護協会)	作業療法学専攻2名	横川 吉晴 (医学部保健学科)
阪口けさみ (医学部保健学科)	上田 勝也 (作業療法学専攻学生)	監事：小池 聖子 (医学部附属病院)
丸山 幸子 (看護学専攻学生)	井戸 芳和 (医学部附属病院)	小穴こず枝 (医学部保健学科)
徳永 彩乃 (看護学専攻学生)		事務局：高山 彰正

## 信州大学医学部保健学科同窓会会則

### 信州大学医学部保健学科同窓会会則

#### 第1章 総則

- 第1条 本会は、信州大学医学部保健学科同窓会(以下「本会」という。)と称する。
- 第2条 本会は、事務局を松本市旭3丁目1番1号 信州大学医学部保健学科内に置く。
- 第3条 本会は、会員相互の親睦を図るとともに、母校との連携を保ち、その発展に寄与することを目的とする。
- 第4条 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行なう。
- 一 会員の親睦及び研修に必要な事項
  - 二 母校の発展に関する事項
  - 三 その他必要と認められる事項
- 第5条 本会は、必要に応じて各専攻等を単位とする分科会を置くことができる。
- 2 分科会の設置及び運営に関する事項は、理事会の承認を経て各分科会が定める。

#### 第2章 会員

- 第6条 本会の会員は次のとおりとする。
- 一 正会員
    - イ 信州大学医学部附属助産婦学校、信州大学医学部附属衛生検査技師学校、信州大学医学部附属臨床検査技師学校の卒業生
    - ロ 信州大学医療技術短期大学の卒業生
    - ハ 信州大学医学部保健学科(以下「本学科」という)の在学生及び卒業生
  - 二 信州大学大学院医学系研究科保健学専攻博士前期課程及び後期課程(以下「本大学院」という)の在学生及び修了生
- 二 特別会員
    - イ 本学科教員
    - ロ 本学科元教員
    - ハ 前項以外の者で理事会の承認を得た者
- 第7条 会員が死亡または会員たる資格を喪失したときは、退会したものとみなす。
- 第8条 会員が、本会の名誉を傷つけ、または本会の趣旨に反する行為をしたときは、総会において出席会員の4

分の3以上の議決により、これを除名することができる。

- 第9条 正会員は、細則に定める会費を入学時に納入するものとする。また、3年次編入生については編入時に4万円納入するものとする。ただし、退会または除名された会員が既に納入した会費その他の拠出金は返還しないものとする。

#### 第3章 役員等

- 第10条 本会に次の役員を置く。
- 一 会長 1名
  - 二 副会長 1名
  - 三 理事 18名(看護8名;検査4名;理学2名;作業2名;大学院生博士前期課程1名、後期課程1名)
  - 四 幹事 若干名
  - 五 監事 2名
- 第11条 役員は、次の職務を行なう。
- 一 会長は、本会を代表し、会務を総括する。
  - 二 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行する。
  - 三 理事は、会員の代表として本会の運営に当たる。
  - 四 幹事は、本会の実務に当たる。
  - 五 監事は、本会の会計を監査し、総会に報告する。
- 第12条 役員は、次により選出又は委嘱する。
- 一 会長は、総会において正会員の中から選出する。
  - 二 副会長は、会長が正会員の中から推薦し委嘱する。
  - 三 理事は、正会員の中から各専攻毎に選出し委嘱する。
  - 四 幹事は、会長が委嘱する。
  - 五 監事は、総会において正会員の中から選出する。
- 第13条 役員は、任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。
- 2 補欠による役員は、前任者の残任期間とする。
  - 3 役員は、任期が満了しても後任者が就任するまではその職務を行なうものとする。

#### 第4章 名誉会長及び顧問

- 第14条 本会に名誉会長を置き、本学科の学科長を推戴する。  
第15条 本会に顧問を置くことができる。顧問は、総会の議を経て会長が委嘱する。  
2 顧問は、重要事項について会長の相談に応ずる。

#### 第5章 会議

- 第16条 総会は、原則として毎年1回開催し、次の事項を審議決定する。  
一 事業及び決算報告  
二 事業計画及び予算  
三 会則の制定及び改廃  
四 役員を選出  
五 顧問の推挙  
六 その他の必要事項  
2 会長は、総会を召集し、理事会の議を経て前項に定める事項を提案する。  
第17条 会長は必要と認めるとき、臨時総会を開催することができる。  
第18条 総会の議長は、出席会員の中から選出する。  
第19条 総会は、日時、場所、付議すべき事項等を示して召集する。  
第20条 総会に出席できない会員は、あらかじめ文書をもって意見を表示することができる。  
第21条 総会の議事は出席会員の過半数で決し、可否同数の

ときは議長がこれを決する。

- 第22条 総会は、議事録を作成し、これを保存する。  
第23条 理事会は、会長、副会長、理事及び幹事によって組織する。  
第24条 理事会は、会長が必要と認めるとき、又は理事の5分の2以上の要求があったときに開催する。  
第25条 理事会は、会長が召集し、議長となる。  
第26条 理事会の議事は、出席者の過半数で決する。  
第27条 理事会は必要に応じて委員会を置くことができる。

#### 第6章 会計

- 第28条 本会の経理は、会費及び寄付金その他の収入をもって充てる。  
第29条 本会の会計年度は、毎年4月1日から始まり翌年3月31日に終わる。

#### 附 則

- この会則は、平成15年4月1日から施行する。  
この会則は、平成16年4月1日から施行する。  
この会則は、平成19年4月1日から施行する。  
この会則は、平成21年4月1日から施行する。

### 信州大学医学部保健学科同窓会会計細則

- 同窓会費は6万円とし、本学本学科入学時に一括納入することを原則とする。また、3年次編入生及び修士大学院生については、編入時もしくは大学院入学時に4万円を納入するものとする。ただし、本人からの申し出があった場合は、同窓会理事会が分割払いを認めることができる。
- 本学科同窓会費6万円の使用内訳は、次のとおりとする。ただし、この枠を越えて使用する必要が生じたときは、同窓会理事会の承認を必要とする。
  - 在校生の教育支援及び医学部保健学科の運営に関すること。……………3万円
  - 保健学科同窓会分科会(各専攻単位)の運営に関すること。……………2万円
  - 医学部保健学科同窓会としての運営に関すること。……………1万円また、3年次編入生、博士前期課程及び博士後期課程の大学院生の同窓会費4万円の使用内訳は、次のとおりとする。ただし、この枠を越えて使用する必要が生じたときは、同窓会理事会の承認を必要とする。
  - 在校生の教育支援及び医学部保健学科の運営に関すること。……………1万5千円
  - 保健学科同窓会分科会(各専攻単位)の運営に関すること。……………2万円
  - 医学部保健学科同窓会としての運営に関すること。……………5千円保健学科同窓会会員が博士前期課程および博士後期課程に入学した場合は、(1)在学生の教育支援及び医学部保健学科の運営に関して1万5千円を納入すること。
- 金融機関への振込手数料は、会員の負担とする。
- 幹事代表者名で金融機関に同窓会の口座を設け、会計担当幹事が通帳・印鑑を管理する。
- 同窓会費の徴収は、入学時に行ない、徴収後は速やかに同窓会費支払者リストを作成する。
- 会計担当幹事は、会計年度終了後に速やかに決算報告書を作成し、監査を受ける。
- 本細則の改正は、同窓会総会で行なう。

#### 附 則

- この細則は、平成15年4月1日から施行する。  
この細則は、平成16年4月1日から施行する。  
この細則は、平成19年4月1日から施行する。  
この細則は、平成21年4月1日から施行する。

#### 編・集・後・記

この同窓会だよりの編集時期は、猛暑日の連続で喝水が話題になっています。ちょうどアメリカではイチローが4000本安打を達成したとニュースがありました。周囲は彼の偉業をたたえており、長嶋茂雄さんは「…けがが少なく、いつもゲームに出ているからこそ達成された記録であり、コンディションに細心の注意を払っているイチロー選手の努力のたまものだと思います。常にグラウンドにいることは最高のファンサービスであり、まさにプロ中のプロと言えましょう。今後も

一日でも長く第一線で活躍してほしい」とコメントしていました。本人曰く、ヒットを積み重ねられた要因は「4000本のヒットを打つために、8000回以上の悔しい思いをしてきている。その中で、常に自分なりに向き合ってきたという事実はある。誇れるとしたらそこではないかと思う」と話しています。課題を行いつけることの難しさと、実行できた時の人の成長を見せつけられた思いがしました。自分もこうありたいと思う今日この頃です。 保健学科 Y. Y.